

「コンコード町を訪問して」

総務課国際交流係長 寺谷 光 司

今回の訪問団は総勢14名（中学生5名、高校生3名、引率教員1名、町民代表3名、役場随行職員2名）で10月13日～23日までの11日間の日程でコンコード町を訪問してきました。

まず、海外交流派遣研修に参加するにあたり、最初に私が感じたのは一言で言うと不安でした。海外へは1度行っておりますが、ほとんど英語を使う必要がなく、また、国内旅行すらあまりしたことがありませんでした。その中で、役場からの引率、しかも副団長として無事に任務を遂行できるのか、英語が話せない私がコンコードでのホームステイ先でうまくコミュニケーションがとれるのか、いままでの諸先輩たちが培ってきたコンコード町との交流を維持することさらには深めることができるのか、などさまざまな不安のあるまま出発しました。アメリカ行きの機内でもその不安はのこり、13時間という長い航路の中ニューアーク空港に到着。その後、ボストン行きの飛行機へ無事に乗り継ぐことができましたが、約1時間、飛行機が遅れようやくボストンへ到着しました。そこでは、トムさんをはじめ、ディンティーノさん、ジュンコさん、そして私のホームステイ先のデイビットさんなど多くのコンコード町の方にやさしく出迎えてもらい、すぐにコンコード町の方々の心の暖かさを感じることができ、私の胸につかえていた不安が一気になくなったこと覚えております。

その日、私は他の訪問団とは別にデイビットさん宅へまっすぐ向かいましたが、家に向かう車中でデイビットさんは日本語で私にいろいろと話しかけてくれたのがとても印象的でした。さらに、自宅に到着したのはもう21時を過ぎていたと思いますが、玄関には日本語で「ようこそ」と書いた張り紙がしており、とても感動いたしました。自宅では待っていた奥さんのリアナさんがボストンで非常に好まれているというサケの料理を用意してくれていて、とてもおいしくみんなで食事をしました。



ホストファミリーのデイビットさん、リアナさんと私です。

私のホームステイ先のデイビットさんはコンコード・カーライル高校の英語の先生であります。自宅はボストン市内に住んでおり、翌朝6時20分に自宅を出発し高校へ向かいます。朝6時ころという日本ではもう明るくなっている時間ではありますが、コンコード町ではまだ暗く、7時くらいにようやく夜が明けてきます。

まだ薄暗い中、初めてコンコード・カーライル高校を訪れ、何もわからないままデイビットさんについていきましたが、広大な敷地と、大きな建物にまず驚かされ

ました。7時ころになるとスクールバスが次々と到着し生徒たちが通学してきます。日本の通学時間とは違いがあるようで、1時間目の授業は7時30分から始まります。七飯町の訪問団の生徒の様子も気になっておりましたが、さすがにまだ緊張ぎみの様子でありました。

それから、コンコード町の街を車でとおりながら、タウンハウスへ向かいました。車内からコンコードの街を眺め、まず感じたことはどの家も大きく、敷地が広く綺麗な庭が多いことに驚きました。しかし、この辺は街中で小さいほうだと聞きさらに驚きました。

タウンハウスを訪れ、タウンマネージャーと懇談し、コンコードの町旗の話を知りました。七つの星は沼を現し、三本の線は川を表しているそうです。また、1階には姉妹都市提携の写真等が掲示されており、あらためてお互いの街の親密さを実感しました。

また、今回の訪問団は企業の後継者である町民の代表3名が参加しており、アメリカのガソリンスタンド、木材店、造園業、消防署などそれぞれの同じ業種の経営者と熱心に意見交換するなど、とても有意義な研修であったと感じております。

後日、コンコード町との方と話しましたが、今年の訪問団も昨年同様とても積極的でよかったとの言葉をいただいております、やはり、目的をもって行くことは非常に大事なことであったと感じました。

私自身も今回の研修の目的に、コンコード町との交流をより親密にすることと、新たな交流、両町にとって経済的利益を生む交流を何かひとつでも見つけられればという思いで研修してまいりましたが、ウォールデンポンドの水、紅葉の綺麗さにも驚かされました。



ヘンリーソローの住んでいたこと所からみた
「ウォールデンポンド」

「ウォールデン～森の生活」のヘンリー・ソロー氏が有名ですが、彼が最初に行ったことは湖の大きさを調べたことと、湖の深さを調べたことだそうです。ちなみに最大の深さは約33メートルだそうです。2年間森の中で生活した実際のある場所に行きましたが、周囲には何もない本当に森の中で小さい家に住んでいたということでしたが、本当に自然を愛していた人であることを実感できた

ような気がします。また、ソロースクールは彼の名前にあやかっつけられた名前だそうです。コンコード町の方々は、大沼の紅葉と駒ヶ岳の風景が綺麗だと必ずといっていいほど皆いっております。私もそう思います。しかしながら、大沼の水は、ウォールデンポンドの水のようなきれいさはないような気がします。その湖水がもっと綺麗であればより一層、何度も訪れたいくなる地になるのではないかと考えます。

そして、やはりクランベリーには魅せられました。事前研修の中でもクランベリー農場のことをいろいろ勉強し、写真などでみていきましたが、七飯の土壌がクランベリーの栽培に適していると聞き非常に興味深く見学してきました。最初、クランベリーの実は小さく探すのに苦労しましたが、ありそうな所を教えていただきようやく見つけることができました。これについては、長い目でみて、できれば七飯町が日本での先駆者となれば良いと考えます。

ホストファミリーのデイビットさん宅では大変お世話になりました。デイビットさんはボストン市内を地下鉄で移動し、ハーバード大学、チャールズ川、ボストンの港、ビルからの夜景、アメリカで一番古いレストランなど普通の観光旅行では間違いなく経験できないであろうところへ私を案内してくださいました。大変楽しい思い出です。

しかしながら、その中で私は残念な光景を目にしました。それは、ボストンの中心街を歩いているとき街中、あるいはチャールズ川の河川敷にたくさん生活困窮者がおりました。その人たちは紙コップを持ちお金をめぐんでくださいとお願いしており、貧富の差が拡大しているのを間のあたりにしました。さらに、地下鉄に乗車中、大声で辺りの人誰にでも話しかけている中年の方がおりました。私は、酔っ払っているのだと思っておりましたが、後からデイビットさんに話をきいたところ、その方はイラク戦争へいって帰国後、精神的におかしくなってしまったんだということを聞きました。このような貧富の差、戦争での被害者を目の当たりにしあらためて格差問題の対応、世界平和への願いを強く思います。

ニューヨーク滞在中、国連本部を見学しました。その入り口には鉄砲の先がねじれ曲がっている銅像がありました。これは、戦争はNOということです。

私たちの国、日本でも格差社会といわれ、勝ち組、負け組みなどの言葉がつかわれるようになっておりますが、その格差をなくすことができれば、世界平和が一步前進できるような気がしてなりません。私はそう願います。



国連本部前の銅像の前で記念撮影

今回の研修に参加できたことに対し皆様
に深く感謝申し上げます。私自身すばらしい
経験ができました。また、中高生にとっ
ても、町民代表で参加された方もこれか
らの人生の中でこの研修に参加できたこ
とはすばらしい経験であったに違いありま
せん。

最後に、私のホストファミリーを受け入れ
てくださったデビット・ナレンバーグさん、
リアナさん、トム・カーティンさん、ス
ーザンさんそして、毎日私たちのため付

き添っていただいたジュンコ・カーグラさん、また、コンコード町のみなさんに、大変お世話になりましたことに対し、深くお礼申し上げますとともに、これからも、両町の交流が末永く続くことを願って研修の報告とさせていただきます。大変ありがとうございました。